

運動感覚を言語で捉える跳び箱運動の実践報告

—コツの創造と共有による内観的反復学習—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

氏 名（山本 武）

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説体育編では、第 3 学年及び第 4 学年の B 器械運動 - ウ跳び箱運動の目標を達成するための具体的な手立てが記されている。三木（2005）は技の出来栄が向上していく過程では、何も考えずに運動を行うのではなく、力動的な運動メロディーを先読みしながら行うこと（内観的反復）が重要であると述べているが、学習指導要領には技を振り返る手立ては明記されておらず、児童の感覚に委ねられているのが現状である。

阿江（2005）は、コツの情報は人に伝わり、共有可能なものであるとしており、主に言語を介して伝達されるものである。しかしこの時、言語は媒体として用いられるのではなく、記号学における記号現象として、常に意味づけをしながら言語として表される。

それらを踏まえ、6 時間完了の跳び箱運動を行った。種目は開脚跳び、かかえ込み跳び、台上前転の 3 つに絞った。単元の前半では跳び箱運動を行いながら様々なコツを模造紙へ掲示板形式に自由記述後、他者の記入内容を評価する活動を行った。単元の後半では自分自身のコツを創り、伝え合う活動を行った。